

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2024.02.No318

2月号

目次

令和6年特別活動費事業決定報告	1
実行委員会報告・新年の活動方針等	2
地域貢献活動助成報告	5
特別活動費報告	6
Coffee Break	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

令和6年特別活動費事業決定報告

事業委員会 林 昌 宏 (小樽支部)



ブロック会及び支部が住民や行政と一体となって活力ある地域を目指すきっかけとなるように、新たな事業に対して助成する仕組みが施行されて4年が経ちました。コロナウイルスにより活動自粛ムードでしたが、だんだんと活動が再開し始めましたので、特別活動費を応募して活用して頂ければと思います。

令和6年助成申請募集を行ったところ2件の申請があり、選考の結果すべて助成決定しました。次年度の助成決定事業名や選考評価等について述べます。

【助成決定事業①】

「(仮称) 古い建物と新しい建物の魅力を再発見、街歩きツアー」(旭川支部)

〈目的〉

- ・ 建築士と「まち」を歩き、いつもと視点を変えて建物の魅力に気付いてもらう。建築士も一般の人と「まち」を歩くことで、自分たちにも新しい発見があると考えます。
- ・ 建築に興味がない人や、歴史や文化に興味がある人や、気になっていた建物や店舗など、いろいろな視点から「建築」に触れる機会をつくりたい。
- ・ 建築士会のPR、地域関係者との交流による会員の質の向上。

〈内容〉

- ・ 旭川駅から買物公園を通って常盤公園まで散策。
- ・ 今の買物公園の様子や歴史を知ること、まちの魅力を知ってもらう。
- ・ 「ひとりでは入りにくい……」と思っている店舗に立ち寄りながら、新しい発見をする。

〈選考評価・要望〉

- 対象事業が3つの視点が含まれた内容である。
- 建築士と一般市民をつなぐ、参加しやすい内容で建築に興味を持って頂く、建築士は有意義な活動をしている事を知って頂く絶好の機会である。
- 継続として、市民以外(市外)に展望している。
- 事業費総額に対し、ほぼ満額を助成金額としているが、大半は広く周知するための広報費である。
- 多くの一般市民の方に参加していただくよう、広

報など工夫をして頂きたい。

- 他の事業活動の参考・模範となるので、事業の効果や問題点などの結果報告を提出していただく。
- 以上により、200,000円を助成決定しました。

【助成決定事業②】

「WEB版パズルでお家を考えよう アップデート事業」(札幌支部)

〈目的〉

2021年に完成したWEB版「パズルでお家を考えよう」に必要不可欠な機能をアップデートによって追加し、付加価値の高い住教育アプリを子供たちに提供します。

〈内容〉

- 2021年に完成したアプリに機能追加する。
- ・ 作成途中の間取りを保存する機能追加
- ・ 外壁・間仕切り壁・建具の機能追加
- ・ 一部のパーツ入れ替え(機能・デザイン改善)
- ・ アップデート完了次第、随時開催されるイベント、出前授業に使用する予定です。

〈選考評価・要望〉

- 全国大会秋田大会の地域実践活動で認められた更なる発展が見込まれる事業で有る。
 - 会員に対して無償で提供され、士会の利益となる。
 - WEBを活用することによりどこでも有意な活動ができる。
 - 事業費総額に対し、1/2を自己資金で賄っている。
 - 今後のアップデートの予定と、最終形を明確にして欲しい。
 - 今後も無償で提供していくのか、方針を伺いたい。
- 以上により、500,000円を助成決定しました。

2件とも士会のPR、会員等の資質の向上、地域住民との協働の3つの視点のどれかを含んだ素晴らしい内容となっております。

令和7年の募集も始まりますので、たくさんのブロック会及び支部からの申請を宜しく願います。

総務・企画委員会

振り返りと、次の1歩

委員長 高橋 幸二（日高支部）



『出来る人が、出来る時に、出来ない時は、出来る人を探し、応援し、出来ることから逃げないこと。』もう、20年以上前になりますが、今年の全道大会の基調講演者の木本氏からの言葉です。

さて、委員長に再任されまして、というより、希望しまして再登用に成りました。これからの二年間は、タイトル通り、【振り返りと、次の1歩】を具体的に提案していきたいと思っています。さらには、委員長として最後の取り組みと成果を具体的に出したいと思っています。

一つは、今年の全道大会です。10数年前より提案していた内容にいいよ取り組める為です。これまでのスタイルの変化と参加意識への自己向上高揚に繋がたいと考えています。もう一つは、長年懸念され、目標になっている会員増強に絡めての、組織体制の統一と改革です。具体的には、青年層の年齢既定の統一設定や、資格修得後の士会への加入規定への取り組み、本部と支部の連携強化に繋がるブロックの係わりを強めていきたいと考えています。

提案自体は簡単ですが、そこへのアプローチを重視して、皆様と広く・深く議論を重ねながら、進めていきたいと考えています。その為にも委員会の仲間とともに、議論を深め、1歩を踏み込み、進めたいと思います。そして、皆様のご助言とご協力をお願い致しまして、活動方針と致します。

事業委員会

新メンバーでの活動

委員長 林 昌宏（小樽支部）



今年度より委員長を仰せつかりました小樽支部の林です。どうぞよろしくお願い致します。私の力量では力不足かと思いましたが、やるからには委員の皆さんと共に建築士会の一つの委員会として務めさせて頂きます。

新体制となった事業委員会は7名中3名が新任委員となりました。青年委員会より付きあいのある仲間や継続して委員になって頂いた方、心強いメンバーに恵まれました。丹波前委員長が築いていった事業や方針を継承しつつ、自分の出来るやり方で、活動をしていきたいと考えております。

昨年度、当委員会の開催した所管事業は「既存住宅状況調査技術者講習」「その他講習会5事業」「北海道建築士特別活動費の助成に関する業務」でした。

本年度も昨年同様の講習会を予定しております。役立つ内容の講習があれば、多くの会員が受講できるよう、時期や場所を選考して参りますので是非とも多くの方の受講をよろしくお願い致します。

また「既存住宅状況調査技術者講習」も開催します。「特別活動費」については、多くのブロック及び支部が活用するよう、不明な点や相談があれば委員会に御連絡頂ければ、その旨説明しますので気軽にお声掛け下さい。本年度も宜しくお願い致します。

情報委員会

北海道らしい情報発信をめざして

委員長 前田 繁（釧路支部）



今年度より情報委員長を仰せつかりました前田繁と申します。副委員長として3期6年間務めさせて頂いたことを生かし、いままでの委員長の足跡を思い返し、これからの北海道建築士へ引き継がなければいけないこと、情報提供について、新メンバーと共によりよい機関誌となるよう、励んでまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

今年度の全道大会では今まで行っていた各分科会形式とは違う方式により、号外の発行は行わない予定でございます。期待していた方々には申し分なく感じているところでございます。ただ、いままでコロナ禍により各委員会、各支部活動を制限せざるを得ない期間から少しずつ脱却し始めていることから、以前どおり活動的な情報提示が出来ることかなによりでございます。各会員が伝えてほしい情報をより敏感に感じながら、効果が得られる掲載が出来るよう活動に励まさせて頂きますので、皆さまの投稿、ご意見、ご要望、何卒よろしくお願い申し上げます。また以前より年に数回ではございますが、情報委員会メンバーの直接取材による西から東からも継続予定、これから2年間、メンバーで力を合わせ、よりよい北海道建築士をお手元にお届けします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まちづくり委員会

交流によるまちづくり活動

委員長 松本 純（札幌支部）



今期よりまちづくり委員会委員長を務めさせて頂きます。札幌支部の松本です。どうぞよろしくお願い致します。

まちづくり委員会では、清水前委員長の頃より各支部各地域でのまちづくり実践活動の情報提供を頂き、まちづくり事例集としてまとめてきました。ご協力ありがとうございました。この活動を通して感じていたのですが、まちづくり活動の各支部・各ブロック間での情報共有や交流が行う事が出来れば、予算や人員不足等の問題により実施が難しい活動も、可能性が広がるのではないのでしょうか。何か発展や出来る事が見つかるような、交流の場やネットワークを作りたいと考えております。

また、建築士会連合会まちづくり委員会にあります、景観・防災・歴史・街中（空き家）・木・福祉といった各部会からの情報も積極的に提供を行い、どの市町村でも社会問題となっているこれらの事に対してのまちづくり活動の一助になればと考えております。

春に開催している『北海道まちづくり会議』、6月に開催予定の『まちづくりフォーラム』では、こういった交流や情報提供の場になると思いますので、多く皆さまのご参加をお待ちしております。

青年委員会

新たなスタート

委員長 吉田 徹 (札幌支部)



令和6年より北海道建築士会青年委員会、青年委員長を務めさせていただきます、札幌支部の吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年、Withコロナということで様々な事業を実施できるようになり、今年はより一層、積極的に様々な事業を進めて行きたいと考えております。

特に、コロナを機に無くなってしまった建築士の日のお仕事体験イベントについては、新たな形態で実施を検討しております。将来、建築士又は建築関係の職を目指したい子供たちを増やしていけるよう活動いたします。

また、青年委員会で行う「全道青年連絡会議」「青年建築士の集い」「全道大会分科会」等で「青年らしく」個々のスキルアップや建築の面白さを再発見すること、仲間づくりができるような事業を進めて行きたいと考えております。今後、大きく変化していく建築業界に立ち向かうべく、当委員会を通じて同じ時間を共有したいと思います。

なお、今年、委員10名中7名の方の交代があり委員会としても新たなスタートをすることになります。精一杯務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

災害対応委員会

続・こつこつと

委員長 土田 浩貴 (上富良野支部)



昨年の4月から被災地応急支援委員会から災害対応委員会に委員会名が変わりました。これからの活動と考えた場合、今までの委員会名では実際の活動と整合性が取れない状況になりつつあると考え委員会名変更に至りました。

今年度も今まで同様、北海道知事認定震災建築物応急危険度判定机上訓練を2回行う予定です。北海道建築士会での被災地応急支援ネットワーク登録者は280名程度となっております。その中で期限が切れていたり、受講後応急危険度判定士未登録の方も数名います。災害対応委員会の机上訓練や北海道主催の講習会を受講して更新や新規登録をお願いします。いざという時が来た場合派遣要請があっても判定士として被災地に判定に行けませんので準備だけはしてほしいと思っております。北海道建築士会各支部と地元の市や町で協定締結されている支部の皆さんは特に更新または新規登録をお勧めします。尚、講習会を希望される支部さんからの依頼も随時受け付けておりますので希望があれば出向きますのでご検討ください。その他委員会では、北海道主催の震災建築物応急危険度判定訓練やコーディネーター研修、住宅フェアに積極的に参加したいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

女性委員会

2期目を迎えて

委員長 後藤 朋恵 (札幌支部)



委員の皆さんに支えていただき務めた1期2年を終え、2期目を迎えることになりました。ジェンダーレスの時代に女性委員会という名前はどうか？と度々議論に上がりますが、委員会としてはとにかく楽しく活動しています。全道の委員が対面で会う機会は年に1~2度しかありませんが、web会議が出来る事でより身近に感じるような気がします。この2年間、全道大会A分科会では雨煙別小学校で廃校についての現状を知り、深川では移住者を招き田舎暮らしをテーマに暮し易いまちを考えました。集いではR4年、アルテピアッツァ見学会。R5年、小樽まち歩きと歴建見学会を開催しました。建築物の勉強会と美味しい食事のセットは会員の大好物です。また、日本建築士連合会への参加では、日本中の女性建築士の活躍の報告を聞き活動のアイデアや現状、パワーをいただく素敵な機会を得ています。私達もインスタ発信を始めた事で、より全国とつながったと感じています。今年度からの計画は、家庭のエネルギーについての現状把握や委員同志の仕事内容を通しての勉強会、住教育活動の活性化(動画による広報)建築士の立場からの終の棲家について考える等、やりたいことが沢山です。今まで先輩たちが築き上げていただいた女性委員会の活動をより楽しく引き継いでいきたいと考えております。

会員増強特別委員会

「監理技術者出張講座のPR」

委員 針ヶ谷 拓己 (札幌支部)



ここ1、2年はCPDが経営事項審査の加点対象になったことを機に、パンフレットによるPRを各支部にご協力いただき、施工管理技士(技士会員)の方々にも多く入会いただいております。こうした技士会員を含め、建設会社に所属する会員が比較的多くなっていることから、会員サービスの一環として、出張型の「監理技術者講習」に力を注いでいこうと検討しております。具体的には、各企業へ出張講座を行うもので、概ね10人以上の参加者確保と会議室等の会場提供が条件となりますが、きっと企業経営者としては監理技術者更新の管理もしやすく、会場費分として1,000円/人ほどの割引も予定していますのでメリットは大きいかと思われます。今後、案内資料も作成していきますので、各支部、会員の皆さまには、PRへのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

会員増強には、新入会員を募ることはもちろん、現会員の皆さまが「継続して会員でいたい!」と思っただけけることも大切です。また、北海道建築士会を支えてくださっている賛助会員の皆さまにも、「建築士会を継続して応援したい!」と思っただけけることも必要ですので、会員サービスの拡充には、より力を注がなければならないと考えているところです。

ヘリテージマネージャー特別委員会

新委員長就任にあたりまして

委員長 杉山 友和 (札幌支部)



本年度から前任の川原委員長よりヘリテージマネージャー特別委員会委員長を引き継ぐこととなりました杉山です。皆様にはいつも当委員会の活動にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。当委員会では他3団体とともに、ヘリテージマネージャー及びコーディネーターの育成を目指し「北海道ヘリテージマネジメント専門職育成講座」の運営を行い、当委員会の主活動となっております。地理的に広大な北海道において受講場所などの面で、近年その育成講座の開催方法が課題となっております。北海道各地域でのヘリテージに関係する人材の確保・展開を目指すべく、札幌だけではなく各地域拠点での、ヘリテージマネジメント講座を受講しやすいシステム作りが本年度のひとつの目標です。また、受講終了後の受講生間のネットワーク作りも具体的なアクションを求められている状況であり、この点においても方向性を模索して参ります。さらに前述講座終了人材の次のステップとして「(仮称)文化財建造物保存修理技術スキルアップ講習会」の実施に向け取り組む必要もあります。その他、歴史的建造物の被災時における調査体制構築など検討事項は多いですが、以上内容を踏まえました事業を展開して参りますので、皆様、何卒よろしくお願いいたします。

BIM推進特別委員会

連携強化と実践的ハンズオン

委員長 大門 浩之 (札幌支部)



引き続き委員長の任につかせていただくことになりました。皆様、よろしくお願いします。

昨年まで、doBIMセミナーを中心にして、会員の皆様に情報提供を主眼とした活動を行ってまいりました。今年も引き続き開催を予定しておりますが、ペースを少し落とし、これからはハンズオンセミナーに重点を置いていきたいと考えています。

これまでも開催してきた導入検討中の方向けの体験型ハンズオンに加え、より実務での活用を見据えた実践的なハンズオンも行います。2025年度に開始される確認申請のBIM化(BIM図面審査)が迫ってきています。是非この機会をBIM確認申請の準備としてご参加いただき、皆さまのBIMの導入・活用のキッカケとしていただければ幸いです。

また、今年からは道内建築団体との連携強化を推進していきたいと考えています。これまで各建築系団体が独自にBIMの推進に取り組んできましたが、連携を通じた情報共有や共同での事業展開により、BIMの推進において一体感を醸成し、より大きな影響を与えることを期待しています。

今年も委員一同、力を合わせて北海道のBIMの普及と利用促進に全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いします。

地域貢献活動センター委員会

新しいこと始めませんか

委員長 工藤 美智子 (札幌支部)



当委員会は「北海道建築士会地域貢献活動基金」を適正に運用する為に、助成対象事業及び助成額について客観的かつ公平に選考する為にあります。

基金を利用するには、建築士会に1年以上継続在籍している会員(2名以上)がいる活動団体の代表者、又は士会会員で構成された任意グループの代表者が助成申請をする必要があります。任意グループですので現存する委員会とは関係のない仲間づくりも可能です。

助成対象事業は、営利を目的としない「地域貢献・まちづくり活動」で助成限度額は1件20万円(予算範囲内)です。会場費、広報費、講師謝金や交通費に充てることができます。

募集期間は、毎年1月1日から9月30日迄です。申請書・事業計画書・予算書などを提出していただくと、当委員会が選定基準に従い選考させていただきます。

詳しい助成対象事業(9テーマ)、申請書の様式などは道士会HPで公開しています。過去の助成事業の紹介も掲載しています。

せっかくの基金ですのでどんどん活用させていただき、地域の活性化や住教育、景観保全や防災活動などを通して、仲間の輪も広がっていきましょう。

ご不明な点は士会事務局にお問い合わせください。

令和6年

(一社)北海道建築士会会員作品の募集

みなさんの手がけた建築作品を広くアピールしてみませんか。

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。

また、その中から4点程度を選考し9月発刊「北海道建築士No.325」に掲載します。

多くの会員の応募をお待ちしています。

※応募要項など詳細は、3月発刊「北海道建築士No.319」に掲載。また北海道建築士会HP(<https://www.h-ab.com/>)では、第1回~11回の作品も見ることができます。



昨年の作品

モルモットが快適に過ごせる 空間デザインコンペ

事務局長 小町 美穂 (札幌支部)



活動団体名 円山動物園「こども動物園」の魅力UPプロジェクトで令和5年度 北海道建築士会地域貢献活動基金助成事業に申込をしました。

〈企画内容〉

●募集対象

学生（高校・大学・専門学校）・モルモット好きの方

●審査形式 コンペ形式（2段階審査）

1次審査

以下の5項目について、審査する。

- デザイン力 デザインが優れている。
- 提案力 わかりやすいように表現できている。コンパクトにまとめている。
- 理解力 モルモットがストレス無く過ごせる空間を理解し、反映している。
- 独自性 アイデアに独自性がある。
- 実現化につながる 動物園内で使用出来るものになっている。



コンペポスター

2次審査

1次審査通過作品から円山動物園賞・建築士会賞・円山動物園内で来園者投票により入選を決定する。

●提出物

- 一次審査：書類審査
- 二次審査：作品模型&PR動画

●審査員（6名） ※審査員長

- ・円山動物園：柴田千賀子（園長）
モルモット担当の飼育員
- ・札幌市立大学：若林教授（デザイン学部）
- ・建築士会：近角真一*（日本建築士会連合会会長）
針ヶ谷拓巳（北海道建築士会札幌支部支部長）
小西彦仁（日本建築家協会北海道支部支部長）

●賞金

- 円山動物園賞：5万円、建築士会賞：5万円
- 入選：1万円

1次審査通過作品学生向けのコンペで学生さんの活力を感じるコンペでした。作品はどの作品も素晴らしくモルモットの生態を勉強したもので空間を把握したできばえに驚きを隠せませんでした。また2次審査では11作品の模型とPR動画の両方の審査で円山動

区分	コンセプト
専門学校生	Mol discoお立ち台
大学生	空中歩廊
専門学校生	モルモットとわたしの距離感
大学生	m o l f i t
一般	モルモットが快適に過せる空間をもとめて
専門学校生	インディオのお家
専門学校生	もるのリゾート
専門学校生	モルモットのGYM
専門学校生	モルパーク
一般	C l o u d
大学生	かじかじウォール

物園の来園者にも投票で参加してもらいました。コンセプト動画も素晴らしいできでアイホンで簡単に作成しているとのことでした。（入選者より）



模型展示

審査員は近角連合会会長と小西建築家協会支部長と北海道建築士会札幌支部支部長の針ヶ谷支部長にお願いし好評を頂きました。

近角会長は幼少期札幌在住で円山動物園の近くに住んでいたそうです。懐かしそうにされていました。小西建築家協会支部長も「モルモットの勉強をし良い経験になりました」と話されていました。



審査の様子

●受賞作品

賞	作品
建築士会賞（1作品）	No.8 モルモットが快適に過せる空間をもとめて
円山動物園賞（1作品）	No.7 m o l f i t
入選（3作品）	No.5 空中歩廊 No.11 もるのリゾート No.10 インディオのお家



左：建築士会賞No.8
右：円山動物園賞No.7

入選 左：No.5
中：No.11
右：No.10



コンペは初めての企画で反省点も多くありました。

学生さんへの周知の難しさ、予定しない出費があったりと苦労もありましたが助成金額が決定し安堵しております。



表彰式後記念撮影

「マップのマップ」と「交流カフェ」



まちづくり事業特別委員会 山崎 景子（釧路支部）

マップのマップを作ろうと思い立ったのは、前年に支部70周年事業として開催した「まちづくりトークセッション」がきっかけでした。釧路では、地元に良くしようと活動している市民団体が多数あります。一方で、イベントがあると知れば出かけるけれど、市民団体名や実際の活動内容を知らないという一般市民が意外と多いということが分かりました。

同様に、そういった団体で作成した釧路の魅力を発信するマップが多数存在しているのに、一般市民が手に取り、目にする機会がとても少ないということも、とても残念に感じていました。

市民団体とマップ、この二つを同時に発信できる方法はないだろうか？市民団体同士をつなげたい！と企画したのが、この「マップのマップ事業」です。「令和5年（一社）北海道建築士会特別活動費助成事業」に採択され、この事業がスタートしました。

を掲載することができました。

今回は「釧路まちなか編」と題して、主に中心市街地にスポットをあてています。

マップは釧路駅から歩いていくイメージで通常の方位とは南北逆になっていますが、これが意外と分かりやすく感じます。サイズは八つ折でA5版。

掲載マップにはQRコードを配しネット上でも見られるようにしてあり、活動地域が色別で分かるようにしています。

マップ全体と主要な建物のイラストは釧路在住のイラストレーターに依頼しましたが、それ以外の構成などは委員の自作というハンドメイドなマップです。



マップのマップ（裏表）

約半年かけて委員皆で集めたマップを元にマップの作成元の団体へ掲載承諾を求めながら、公募も行ったところ、おおよそ29のマップと28の市民団体



交流カフェの様子

12月22日（金）くしろ港町ギャラリーにて、集めたマップの展示とマップのマップ配布、そして市民の交流を目的とした1日限定の「交流カフェ」を開催しました。チラシとSNSのみという消極的な宣伝にもかかわらず70名ほどの来場数があり、嬉しいことに皆さんが交流を持ち、楽しそうに話をしている様子が見られました。

会場でお願ひしたアンケートによると、今事業の成果品である「マップのマップ」の評価は高く、カフェにおいても「また開催して欲しい」という声を頂いています。その他、建築士、建築士会に望むことや、まちづくりについての意見なども書かれており、もっと頑張らなければと思わされました。

事業を進めるにあたり、あれもこれもとマップに載せたいアイデアが湧いてきます。カフェに来られた皆さんからも追記したい内容を頂いています。

「マップのマップ」はこれからも継続事業として、そのカタチを進化させていくことになりそうです。

松山支部

江差景観ワークショップから

事務局長
成田 司



このワークショップは2010年から2023年（令和5年）まで江差小学校で毎年開催してきました。当初から松山景観プラットホームの構成員として松山支部、北海道科学大学建築学科谷口研究室（2020～2023年はコロナ禍により不参加）、北海道松山振興局、江差町との協働でワークショップを行ってきました。この取り組みは子供たちの郷土学習の一環として、江差の歴史ある街並みや風景について学び、具体的な景観づくりを考え作業を行うことで、江差らしい景観について理解を深め「ものづくりの楽しさ」を学ぶことを目的として実施しているものです。途中コロナ禍（2020年～2023年）でも江差小学校では中止することなく続けられてきたことは、校長先生、教頭先生および担任先生方の協力に謝するばかりです。

2023年7月24日（月）に江差小学校にて6年生（23名）を対象にテーマ「一休み公園を彩ろう！」で1回目のワークショップを行いました。本町一休み公園に設置される木製のプランター収納ボックスにデザインする絵柄を考えました。最後はグループ毎に発表。

8月28日（月）2回目のワークショップは一休み公園での予定が天候の具合で学校1階ピロティでのワークショップとなりました。前回デザインした絵をもとに道南スギを使用したプランターボックス側面の板に江差の街並み、風景の絵付けをし、着色作業を終了、完成。最後夫々グループ毎に感想発表し、作品を前に全員写真となりました。

当初のフットパスルート看板標柱作製から一休み公園、九艘川公園でのテーブル、椅子、プランターボッ

クス、ペットボトルで江差の風を利用した風力発電等の取組みを通して、2024年には15年を迎えます。今後共、子供たちへの楽しい手引きになる事業と願い、続けていくことの重さを感じています。



江差小学校ピロティでのWS



江差小学校ピロティでの2回目のWS 全員写真

留萌支部

留萌支部 近況

事務局長兼青年部長
日野 善光



北海道建築士の会員の皆様、令和6年も留萌支部をよろしくお願いします。

新型コロナウイルス感染症も5月に5類感染症に移行し、長かったコロナ禍以前の生活に戻っています。

留萌市内の行事でも「るもい呑涛祭り」など各行事が4年ぶりに開催されました。

当支部は、留萌市を中心とした1市6町村の会員44名と協賛会員で活動しています。私が建築士会の活動を始めた平成21年の留萌市の人口は、2万5千人弱でしたが今では2万人を下回っています。支部の会員も同様に減少し、青年建築士の40歳以下が現在4名と人口減少と高齢化が進んでいることを切に感じているところです。

令和5年の支部の活動としては、全道大会北空知大会に参加しましたが、1月の総会の簡略開催や、7月の建築士の日チャリティビヤパーティーの開催見送りなど、未だに思うように再開出来ないのが実状です。

又、青年部としては4月下旬に道北ブロック協議会を増毛町で開催し、事業として道内の木造校舎で最大で最古の旧増毛小学校を見学することができました。歴史的な建物を見学することで地元の歴史を知ることと、貴重な建物保存や一般公開の困難さも知ることができ貴重な時間を参加者と共有できたと思っています。事業後の懇親会も新型コロナ禍以前のように開催でき、対面による活動が元に戻りつつあることを実感していました。

今後は、会員減少は進む中で支部活動は困難が多いですが、チャリティビヤパーティーなど継続し

て活動していた事業から再開できればと思っています。

新規会員勧誘や支部活動の今後についてなど、課題の一つ一つに前向きに取り組んでいきたいです。



道北ブロック協議会事業の様子



平成31年ビヤパーティー開催の様子

道士会の動き

本部の主な会議報告（1月）

◆第1回青年委員会

〈開催日〉13日（土）

- 1) 令和5年事業報告・決算報告、令和6年事業計画・予算
- 2) 全道青年委員会連絡会議
- 3) 青年建築士の集い
- 4) 全道大会青年サミット
- 5) 全道大会C分科会
- 6) その他

◆令和6年実行委員会委員長会議

〈開催日〉23日（火）

- 1) 令和6年事業計画及び予算
 - ・一般会計事業
 - ・特別会計事業（地域貢献活動センター）
- 2) 令和6・7年実行委員会の課題
- 3) その他

◆第1回BIM推進特別委員会

〈開催日〉24日（水）

- 1) 2024活動内容とスケジュール
- 2) 委員会内勉強会「IFC」

関係機関等会議参加予定（2月）

8日（木）建設系CPD協議会運営委員会（WEB）
上記 高野会長

講習会・セミナーのご案内（2月）

建築士定期講習

15日（木）北見市

監理技術者講習

14日（水）札幌市 15日（木）旭川市 22日（木）函館市

応急危険度判定士認定講習会

1日（木）苫小牧市 2日（金）札幌市

基準法講習会

1日（木）旭川市 6日（火）留萌市 7日（水）札幌市
8日（木）網走市 9日（金）北見市、岩見沢市、倶知安町
14日（水）釧路市 15日（木）小樽市、帯広市
20日（火）江差町 21日（水）北斗市、室蘭市
22日（木）中標津町、苫小牧市 27日（火）稚内市

編集後記

今年度は各委員会の改選により活動報告が載せられております。各委員会共、盛りだくさんの活動予定がみられ、いままでの自粛ムードの鬱憤をはらしたい思いが伝わってきます。今月号表紙は令和6年特別活動費事業決定でございます。少子化、高齢化の影響により建築業界も縮小傾向、各支部会員不足により活動がしにくくなっていることと思われませんが、特別活動費の助成を受ける参考にして頂き、各支部の活動がより広がることを願っております。

情報委員会 委員長 前田 繁（釧路支部）

建築士試験「設計製図」合格者（北海道）

	実受験者	合格者	合格率
一級建築士	233名	76名	32.6%

CPD認定プログラム（1月認定）

◆北海道の建築技術向上のための講習会

《日程及び会場》2月15日（木）10：00～15：00
札幌国際ホール（札幌市）

《単位数》4単位

《問合せ先》

（一社）北海道建設業協会 TEL 011-261-6185

◆令和5年度北方型住宅技術講習会

《日程及び会場》2月16日（金）13：30～15：30
TKP札幌カンファレンスセンター（札幌市）
及びオンライン

《単位数》2単位

《問合せ先》

（一財）北海道建築指導センター TEL 011-241-1893

◆第67回（令和5年度）北海道開発技術研究発表会

《日程及び会場》2月16日（金）13：00～13：55
北海道開発局研修センター及びオンライン

《単位数》1単位

《問合せ先》

北海道開発局営繕部 TEL 011-709-2311（内線5784）

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！

■視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
■2月パスワード：Kit040

■お知らせ■

北海道建築士 No.317 1月号
P6 道士会の動き

北海道建築士会年間行事予定の記載内容に誤りがありました。

誤）3月6日 第1回理事会

↓

正）3月13日 第1回理事会

正しくは3月13日になります。

情報委員会委員長／前田 繁
副委員長／村山 賢司・立花智亜喜
委員／岩浪 治郎・角張 隆昌
津山 浩・奈良岡 修

北海道建築士 No.318号

印刷 令和6年1月／発行 令和6年2月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番